

教科・種目名 技術・家庭（技術分野）

採択基準	基本観点	発行者名
		2 東書
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	<p>ガイダンスのページが3項目12ページあり、技術が、社会や生活に好影響を与えていることを示しながらも、環境問題やエネルギー消費等の課題を解決する技術も挙げ、持続可能な社会の実現に向けた取組の必要性を示している。また、3年間の学習に対して見通しを持って臨めるよう4つの内容が同じような手順で進めるよう整理している。</p> <p>職業についての理解は22項目、伝統文化については11項目示している。</p> <p>別表 1</p> <p>4つの内容の割合はAが31%、Bが24%、Cが18%、Dが27%となりAの内容の取扱い量が多く、Cの取扱い量が少ない。</p>
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 基礎的・基本的な内容の定着を図るための配慮	<p>基礎的・基本的な作業は、内容ごとに「基礎技能」「技術のとびら」としてページごとに囲ってあり、調査については「調べてみよう」や「実験」印で示し、ガイダンスと4つの内容で扱っている。</p> <p>情報モラルについては、13項目30ページを使っており、ガイダンスや他の内容でも扱っている。</p> <p>最初に実習の安全について4ページを使って説明後、「安全」印（30箇所）を付けて生徒への喚起を促している。</p> <p>別表 2</p>
	(2) 思考力・判断力・表現力等の育成を図るための配慮	<p>実験実習のために「観察」印で10箇所示し、実際に体験を通して思考力・判断力の育成を図れるようにしている。</p> <p>製作の構想から完成した作品の評価までを検討し、話し合いが持てるよう「話し合ってみよう」印を9箇所設定している。</p> <p>また、各章の章末には計4例、課題を絞り評価し、学習した内容を未来に生かせるよう、わかりやすく具体例を示しながらまとめてある。</p> <p>別表 3</p>
	(3) 生徒が自主的に学習に取り組むことができる配慮	<p>学習の定着を確認するための「考えてみよう」を各章各単元ごとに配置し前時までに学習した内容を自ら復習することができる。</p> <p>各編末には学習のまとめとして、「学習を振り返ろう」「学習したことを確かめよう」があり学習の振り返り、定着を確認できるようになっている。また、学習のまとめの中の「生活に生かそう」は、自らの生活に還元できるようになっている。</p> <p>「リンク」マークを示し（138箇所）、関連する学習内容を示している。</p> <p>各編ごとに「実習例」を複数（計37例）提示し、技術を評価する能力を育てるよう配慮している。</p> <p>別表 4</p>

発行者名	
6 教図	9 開隆堂
<p>ガイダンスのページが12項目15ページあり、技術が優れた材料や製品をつくりだしてきたこと、その一方で環境問題を引き起こしてきたことを挙げ、問題を解決するためにも技術が活用されていることを示している。また信頼性や複雑さを極めるものづくりの大切さについても挙げている。</p> <p>職業についての理解は2項目、伝統文化については3項目示している。</p> <p>4つの内容の割合はAが30%、Bが22%、Cが23%、Dが25%となりAの内容の取扱い量が多い。</p>	<p>ガイダンスのページが4項目18ページあり、技術が、生活の向上や産業の発展に好影響を与えていることを示しながらも、技術がもたらした環境問題について果たす役割を気付かせ、持続可能な社会の実現に向けた取組の必要性を示している。また、3年間の学習の進め方に対して同じような手順で進めるよう整理している。</p> <p>職業についての理解は5項目、伝統文化については3項目示している。</p> <p>4つの内容の割合はAが32%、Bが20%、Cが18%、Dが30%となりAとDの内容の取扱い量が多く、Cの取扱い量が少ない。</p>
<p>基礎的・基本的な作業は製作例の中で多く示してあり、調査については「調べよう」印で示し、4つの内容で扱っている。</p> <p>情報モラルについては、3項目10ページを使っている。</p> <p>実習を行う際の安全についての注意事項は「注意」印（25箇所）を付けて生徒への喚起を促している。</p>	<p>基礎的・基本的な作業は、材料別・実習別に示してあり、調査については「調べてみよう」印で示し、4つの内容で扱っている。</p> <p>情報モラルについては、7項目22ページを使っている。</p> <p>最初に実習の安全について2ページを使って説明後、「安全」印（28箇所）を付けて生徒への喚起を促している。</p>
<p>実験実習のための「実験」印を6箇所示し、実際に体験を通して思考力・判断力の育成を図れるようにしている。</p> <p>「やってみよう」の中に、話し合いを喚起するような内容がある。</p>	<p>実験実習のための「実験」印を4箇所示し、実際に体験を通して思考力・判断力の育成を図れるようにしている。</p> <p>製作の構想から完成した作品の評価までを検討し、話し合いが持てるよう「話し合ってみよう」印を19箇所設定している。</p> <p>また、各章の章末には計4例、課題を絞り技術の適切な評価と活用について、主体的に考えさせるよう、わかりやすく具体例を示しながらまとめてある。</p>
<p>各章各単元ごとに学習の目的と内容を示し、学習の意欲を持たせるようになっている。</p> <p>各章末にまとめを掲載し、学習の内容を自ら確認できるように工夫している。また、章末問題を配置し、学習の定着を確認できるようになっている。</p> <p>「⇒」マークを示し（66箇所）、関連する学習内容を示している。</p> <p>各章に「実習例」を複数（計18例）提示している。</p>	<p>各章各単元ごとに学習目標、学習の流れを示し、さらに「考えてみよう」で学習内容の定着を図っている。</p> <p>4つの内容ごとに「学習のまとめ」として（学習を振り返ろう）や（生活に生かそう）、（？）でその内容で学習した技術の振り返り、自らの生活に生かせるようになっている。</p> <p>「リンク」マークを示し（80箇所）、関連する学習内容を示している。</p> <p>技術を適切に評価し活用する能力を育てるよう、内容ごとに「実習例」を複数（計28例）提示している。</p>

教科・種目名 技術・家庭（技術分野）

採択基準	基本観点	発行者名
		2 東書
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(4) 学習指導要領に示していない内容の取扱い 別表 5	4つの内容に対しBで2つの発展的な内容を紹介している。また、生徒の興味・関心に応えられる様にページ下に「Q&A」を設け(109箇所)、学習を深められるようにしている。
	(5) 他の教科等との関連 別表 6	「小学校」の印でその学年及び教科名、内容(11項目)を、「他教科」の印で道徳を含めた他教科名とその学年及び内容(26項目)の関連付けを示している。 道徳については、「他教科」の印で道徳を設け、「自然への畏敬の念」・「勤労の尊さ」・「役割と責任を自覚」・「主としてほかの人との関わりに関すること」の内容で(7項目)記載している。 環境に関わる内容には、「環境」マークを付けて環境・資源・エネルギーについての配慮や学習の視点をわかりやすく示している。(16箇所)
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫 別表 7	写真、挿絵、資料ともに多く使用している。 A B判で編集されており、図版を整理して配置している。 写真、挿絵、資料の5分の1程度は実習の手順を示すのに使用している。 必要に応じて教科書欄外に「☆」印の脚積を設け生徒の理解をより深められるようにしている。

発行者名	
6 教図	9 開隆堂
4つの内容に対しBで1つ、Dで1つの発展的な内容を紹介している。また、各ページ左右に多くの「図」や「注」を設け、学習を深められるようにしている。	4つの内容に対しBで2つの発展的な内容を紹介している。また、生徒の興味・関心に応えられる様にページ下に「豆知識」をほぼすべてのページ下に設け、学習を深められるようにしている。
各内容の中に関連学習を「⇒」で示しているが、教科名履修学年などの表記はない。 環境に関わる内容は、本文の中で必要に応じて掲載している。	「リンク」の印で他教科名とその学年及び内容(15項目)の関連付けを示している。 環境に関わる内容には、「環境」マークを付けて環境・資源・エネルギーについての配慮や学習の視点をわかりやすく示している。(19箇所)
写真、挿絵、資料ともに多く使用している。 B 5判で編集されており、図版を整理して配置している。 写真、挿絵、資料の4分の1程度は実習の手順を示すのに使用している。 必要に応じて教科書欄外に「注」印の脚積を設け生徒の理解をより深められるようにしている。	写真、挿絵、資料ともに多く使用している。 B 5判で編集されており、図版を整理して配置している。 写真、挿絵、資料の5分の1程度は実習の手順を示すのに使用している。 必要に応じて教科書欄外に「*」印の脚積を設け生徒の理解をより深められるようにしている。